



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第四六三号）

春分 しゅんぶん

三月二十日

浜参宮

春分の日。太陽は真東から出て、真西に沈むため、昼と夜の時間がほぼ等しくなります。また仏教の彼岸ひがんの中ちゅう日にちにもあたり、先祖のお墓に参る風習もあります。「暑さ寒さも彼岸まで」といわれるように、この頃から気温はぐんぐん上がり、本格的な春を迎えます。

春分のおどけ雀と目覚めけり 星野麥丘人 ほくきやうじん

おどける雀と目覚めの時。寒さの厳しい冬とは異なり、この頃のほんわりとした暖かさが伝わってきます。

伊勢では、四月から始まる「お木曳きひき」行事を前に、浜参宮が行われています。浜参宮は古来、お伊勢参りをする人々が、二見浦で潮水を浴びて禊みそぎを行い、心身を清めた習わしに由来します。五十鈴川が伊勢湾に注ぐ河口の二見浦は、古くから「清き渚きよなは」と呼ばれ、聖なる浜として、人々が心身を浄めたお伊勢参りとは深い関わりを持つ浜です。

今でも、お木曳など伊勢神宮の式年遷宮しきねんせんぐうに関連する行事では、奉仕する伊勢市民たちが、禊みそぎをする代りに、二見浦の二見興玉神社に参拝する形に変えて浜参宮を行っています。

浜参宮は結成された奉曳団ほうえいだんごとに日程を定め、お木曳に奉仕する人々が揃いのハッピを着て、参拝するのが習わしです。JR二見浦駅から、二見の旅館街きやを木遣りを歌いながら歩き、二見興玉神社でお祓ひないを受けます。三月とはいえ、海岸の風は少し冷たく、きりつと引きしまります。

なかには大湊奉曳団おほみなをのように、地域にある伊勢湾岸の鷺わしが浜で浜参宮を行うところもあります。

この浜参宮を行うとお木曳もいよいよと、奉曳団の団結も高まります。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 五十鈴川桜まつり

今年も五十鈴の里に桜の季節がやってきます。

花見は桜の木に宿る農業の神様をもてなし、秋の五穀豊穡をお祈りする行事と言われていました。花見料理やお酒を愉しみながら桜の木に舞い降りた神様をお迎えしましょう。どうぞ、ごゆっくりお楽しみください。

日 時／3月28日(土)～4月5日(日) (桜の咲く頃) 10:00～17:00

場 所／五十鈴川河川敷周辺

※雨天及び諸事情により、内容が一部変更または中止になる場合がございます。

● 花見特別席(予約制)

桜を愛でながら花見料理やお酒を愉しむ特別席をご用意します。

日 時／3月28日(土)～4月5日(日) 11:00～17:00

夜間営業 21:00まで(期間／3月28日～31日、4月2日～5日)

※ただし、3月31日と4月5日は、20:00まで

※花見特別席以外の一般席は、ご予約不要

場 所／野あそび棚(2階テラス席)

料 金／お一人様 90分 8,000円 2名様より

定 員／各時間2組

● 春の特別料理

季節の食材を使ったお料理をお楽しみください。

日 時／3月20日(金・祝)～4月5日(日) 各店の営業時間内

場 所／すし久、団五郎茶屋、野あそび棚、招福茶屋、ふくすけ、
とうふや、はいからさん

お問い合わせ/おかげ横丁総合案内「おみやげや」 電話0596-23-8838

五十鈴塾

○ 神宮と伊勢の人々～近・現代編～

伊勢神宮は昔から変わらぬ営みを続けてきましたが、実はたくさんの困難を乗り越えてきたのです。近代では明治期、国家的な管理が強まり、祭祀が整理統合、神宮大麻、御神楽が神宮で行われるなどの改革がなされました。明治19年には神宮の整備を目的に神苑会が組織され、神域の整備や文化的施設の建築、御幸道路の造成など今日まで繋がる大事業をなしました。伊勢の町としては御師廃止での混乱、神仏分離令での廃寺など町がひっくり返るような大きな出来事がありました。戦後、神宮は一宗教法人となり、新しい歩みを始めました。変化に戸惑いながらも神様を守り続けてきた神宮と伊勢の人々の動きをお話いただきます。

日 時／4月3日(金) 13:30～15:00

講 師／千種 清美(文筆家・皇學館大学非常勤講師)

参加費／一般 1,500円 会員 1,000円

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 五十鈴茶屋節気菓子

の
野あそび

はるか昔から、人々の楽しみであった春の野遊び。

五十鈴川端に、たくさんの若草が茂るこの季節をよもぎの草餅で表現しました。

はる
春の川

五十鈴川の流れに目をやれば、ほんのりと水面が桜色に染まります。
桜あんを葛寒天で包み、美しい景色を写しました。

おう
桜香

伊勢路は桜の名所。

咲く様も散るさまも美しく、いにしえより愛されてきた桜の花。
ほのかに漂う香りも楽しみの一つです。